

第2章 国分寺市の特性

1. 国分寺市の立地・人口特性

(1) 国分寺市の立地

国分寺市は、東京都のほぼ中央に位置しており、JR中央線が東西に走り、都心へのアクセスも良好です。また、JR武蔵野線、西武鉄道国分寺線・多摩湖線が南北に走っており、市内の3つの駅のうち2つがターミナル駅という北多摩エリアの交通結節点と位置付けられる立地です。

JR中央線沿線では、新宿という大規模商業エリアが立地するほか、東西に多摩エリアの商業拠点となる立川と吉祥寺が立地しています。そのほか、高円寺や阿佐ヶ谷、国立等、特色のある商業エリアを有する駅が多いことが特徴です。

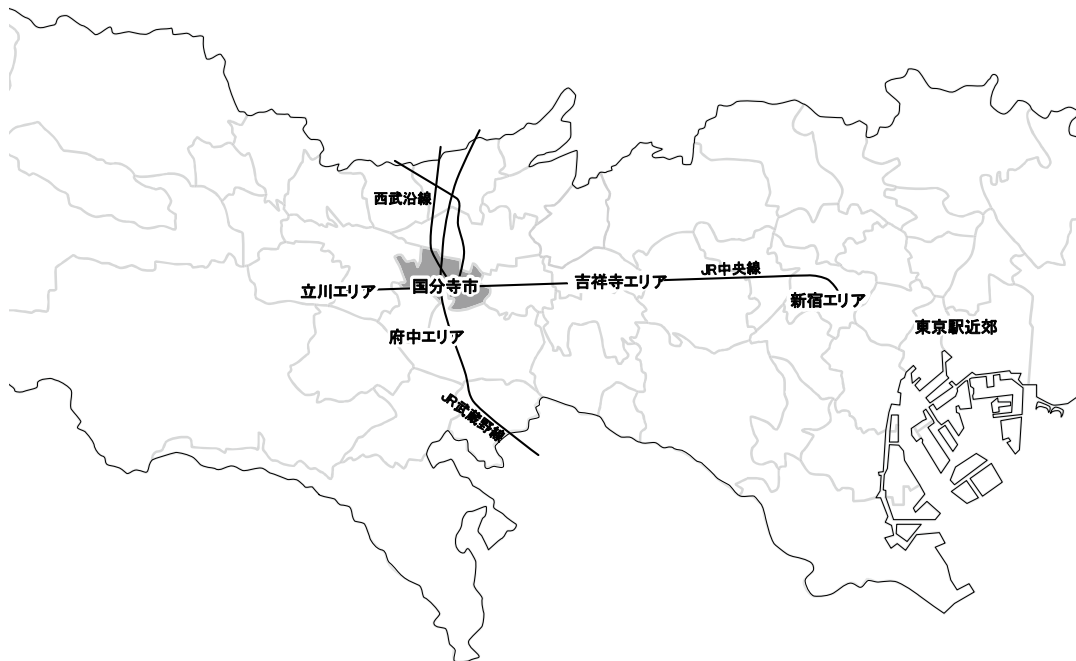


図1 東京都・多摩エリアにおける国分寺市の立地

(2)人口動態

国分寺市は、日本の高度経済成長とともに昭和30年代に大きく人口を伸ばした後、現在に至るまで堅調に人口増加を続けており、平成28年10月1日現在、120,503人が住んでいます。人口増加率は低下しているものの、特に20～24歳の転入超過が著しいことが特徴です。ただし、25～34歳では転出超過が見られることから若い世代の出入りが多いことが見て取れます。

今後の人口動向は、平成27年度に策定した「国分寺市人口ビジョン」の独自推計による推計では、平成72年(2060年)には108,002人にまで減少することが予想されています¹。総人口の減少とともに生産年齢人口も減少し、高齢化が進みます。

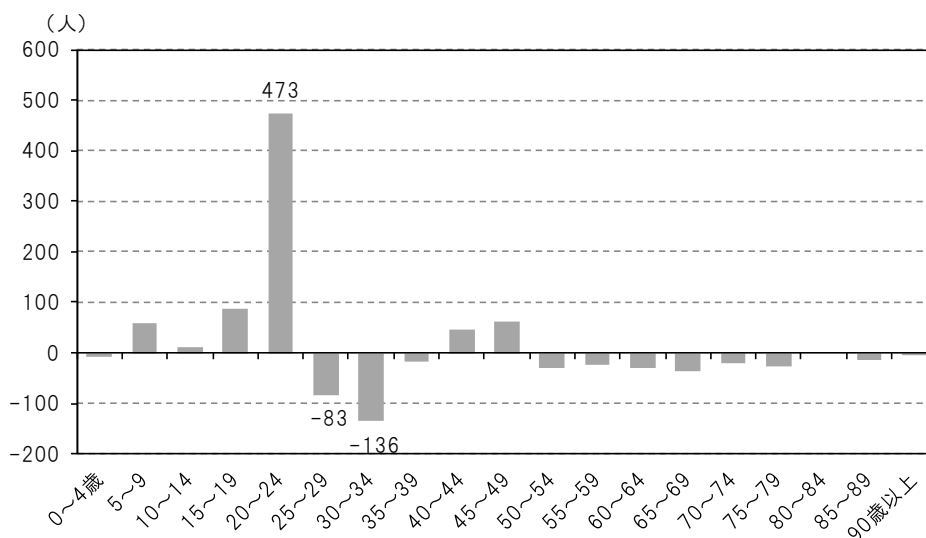


図2 5歳階級別に見た社会増減*

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(平成27年)

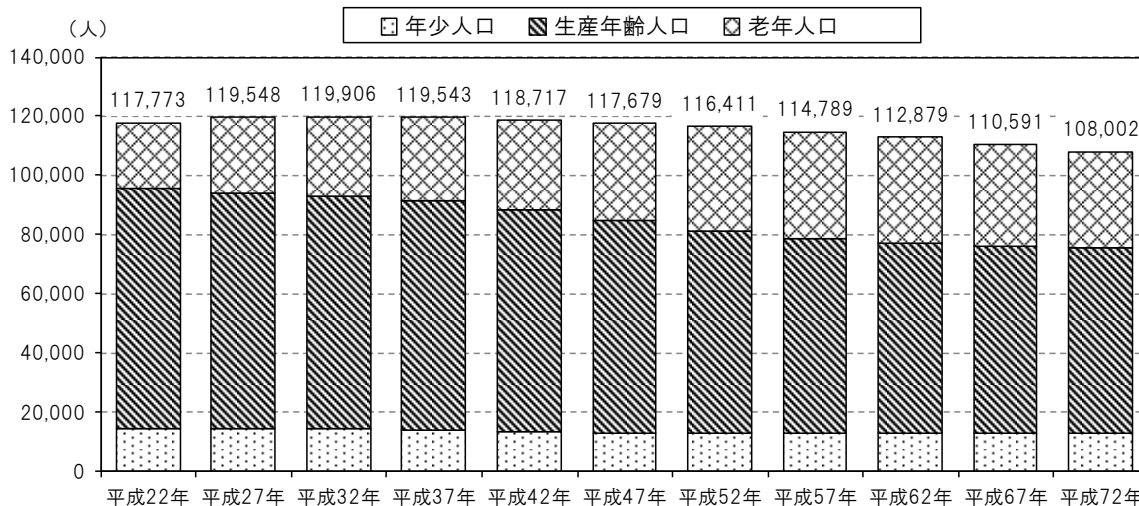


図3 平成72年(2060年)までの人口推計

出典：「国分寺市人口ビジョン」(平成27年度)

¹ 国分寺市人口ビジョンでは、平成26年10月時点の人口を基準として合計特殊出生率や転出入者数を想定して人口推計を行っています。その関係から、平成27年の推計人口が、実際の人口よりも少なくなっています。

(3) 昼夜間人口比

昼夜間人口比率^{*}は83.5となっており、近隣の小金井市、国立市、立川市、府中市、小平市のほか、JR中央線沿線の武蔵野市、三鷹市のなかでは最も低くなっています。ただし、市内の地区別に見ると、国分寺駅周辺の南町と本町の昼夜間人口比率はそれぞれ251.7、191.2となっており、地域差が見られます。

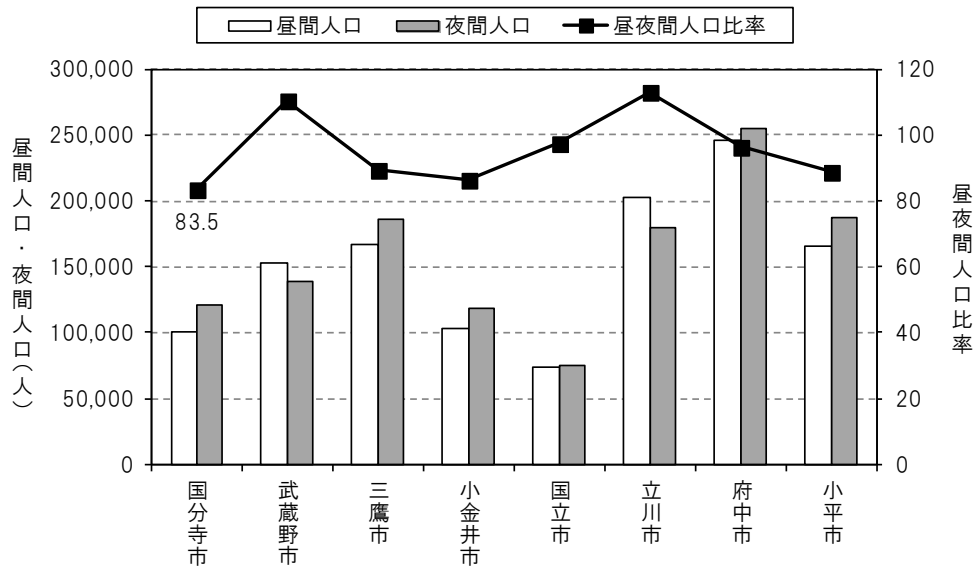


図4 近隣自治体の昼夜間人口比率

出典：東京都「東京都の昼間人口」(平成22年)

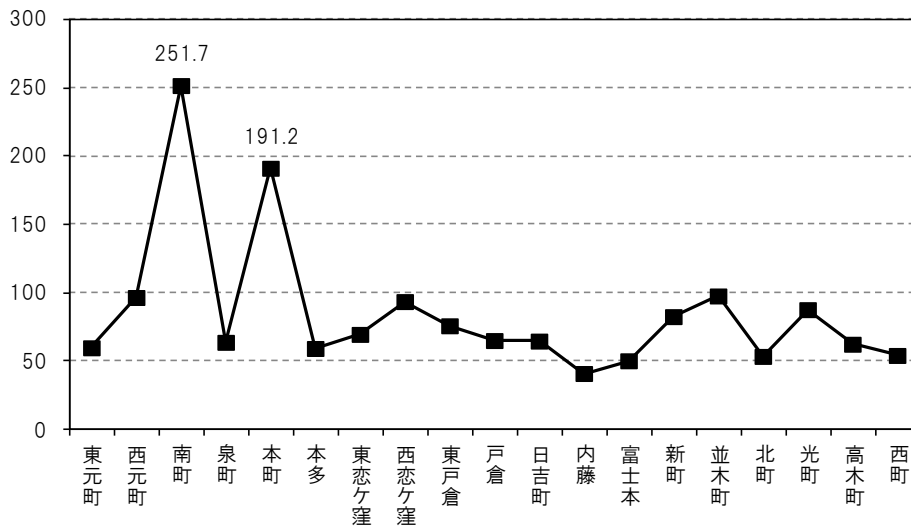


図5 国分寺市における地域別昼夜間人口比率

出典：東京都「東京都の昼間人口」(平成22年)

2. 市民の消費行動やニーズ

(1) 買い物・飲食する場所

本プラン策定に当たって実施した「国分寺市における買い物や地域経済活性化に関する市民アンケート」(以下、市民向けアンケート)²によると、食料品・日用品については市内で購入されていることが分かります。一方、買回品³・贈答品については立川駅周辺が特に多くなっています。

ただし、食料品・日用品を購入する場所ではスーパーマーケットやその他チェーン店が多くなっており、食料品は8割の人がスーパーマーケットを最もよく利用しています。

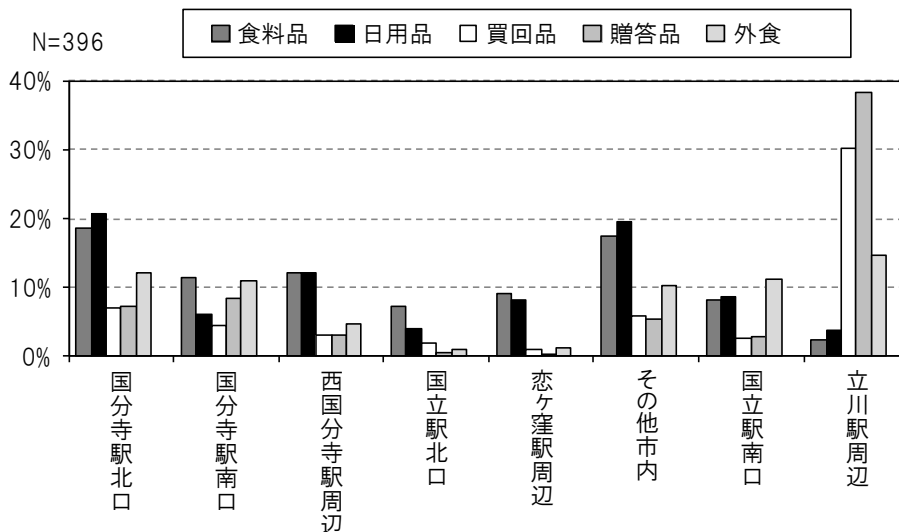


図6 よく買い物・外食をする地域

出典:「市民向けアンケート」(平成28年実施)

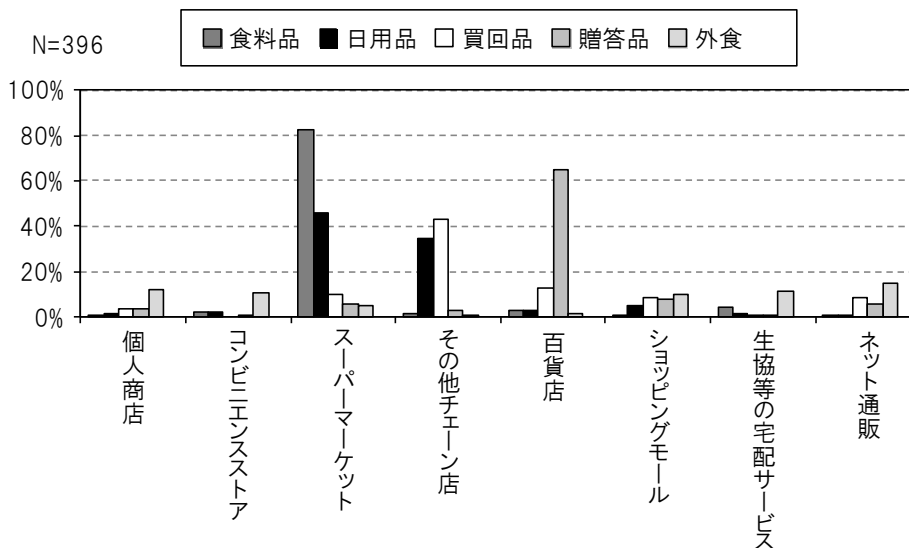


図7 よく買い物をする場所

出典:「市民向けアンケート」(平成28年実施)

² 「国分寺市における買い物や地域経済活性化に関する市民アンケート」は、市民の日常的な消費行動やニーズを把握することを目的として、20歳以上の国分寺市民1,000人を対象として実施しました。回収率は39.6% (回収数396人)でした。グラフ中、Nは回答者数を表します。

³ 耐久消費財や趣味に関する物等、商品を購入する際に、複数の商店を見て回り、比較して購入する品物を指します。

「市民向けアンケート」では、全体的には日々の買い物に不便さを感じている人は3割弱でした⁴。ただし、地域別にみると、新町・北町・並木町・戸倉・東戸倉・富士本地域では4割を上回っています。一方、国分寺駅北側に位置する本町・本多・東恋ヶ窪地域では1割強にとどまっており、地域差が見られます。

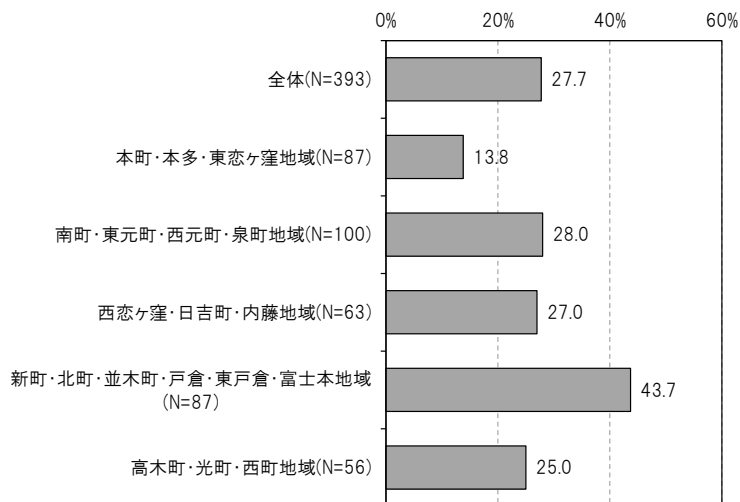


図8 地域別：食料品や日用品の買い物をする際に不便だと感じる人の割合

出典：「市民向けアンケート」(平成28年実施)

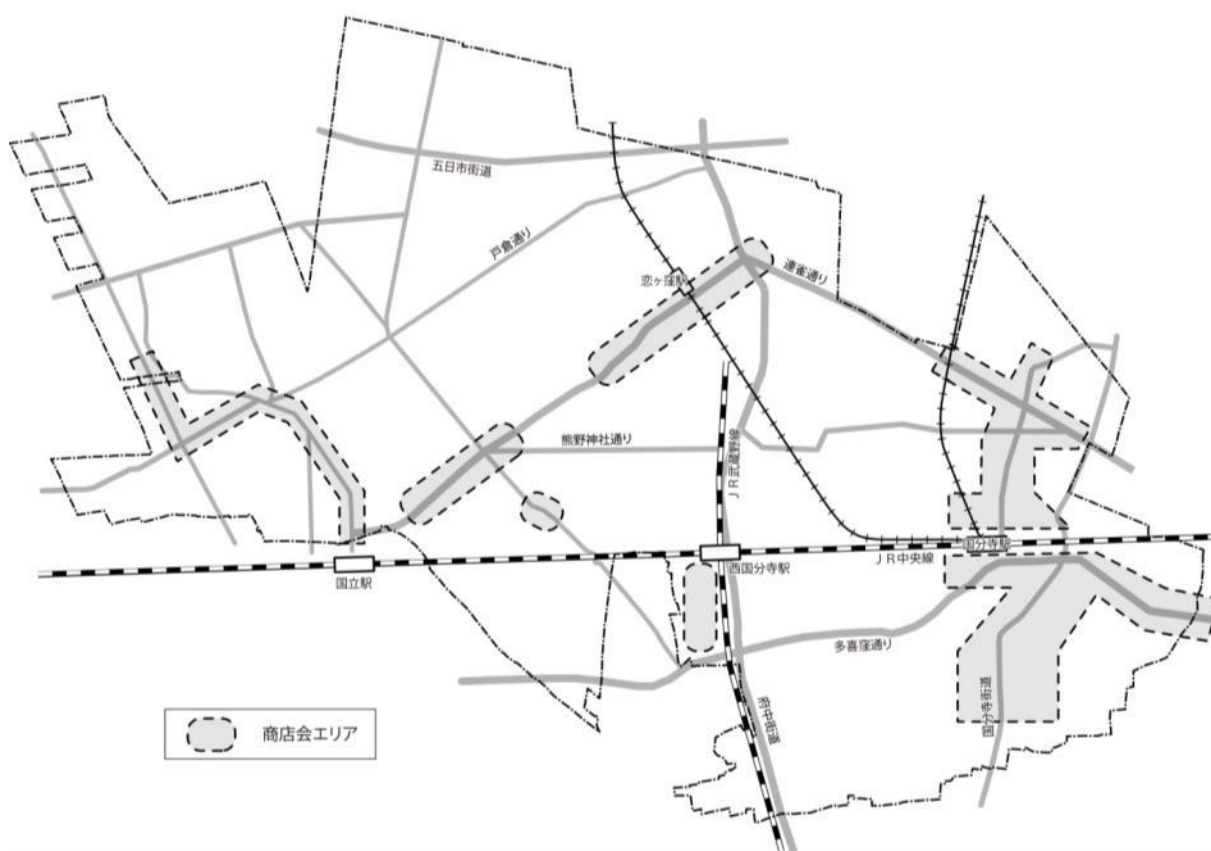


図9 商店街の分布(平成28年時点)

⁴ ここで言う「不便さを感じる人」は、市民向けアンケートにて「不便だと感じる」「どちらかという不便だと感じる」と回答した人の合計です。

(2)商店街の利用状況と意識

市民向けアンケートによると、近所の商店街によく買い物に行く人は3割弱でした⁵。地域別にみると、本町・本多・東恋ヶ窪地域と西恋ヶ窪・日吉町・内藤地域にて特に利用が多くなっています。

商店街に足を運ぶ理由では、食料品や日用品の購入が多くなっています。ただし、市民の日常的な買い物の状況を考慮すると、商店街に立地するスーパーやチェーン店にて購入していると推察されます。

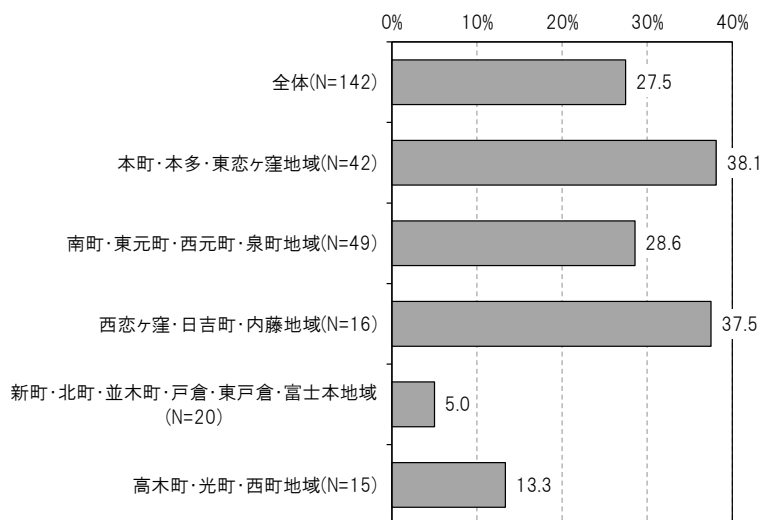


図10 地域別：近隣の商店街の利用状況

出典：「市民向けアンケート」(平成28年実施)

商店街をほとんど利用しない人の理由では、品揃えが少ないことや値段が高いことが挙げられているほか、足を運ぶことを気兼ねするといった理由も多くなっています。この結果とも関連して、商店街への期待としては商店の多様化と飲食・中食⁶・食料品関係の充実が挙げられています。

⁵ 市民向けアンケートでは、近所に商店街があるかどうかを尋ね、商店街があると回答した人のみ、商店街の利用状況を回答しています。そのため、商店街の立地を示してはならず、回答者が認識する商店街の利用状況となっています。

⁶ 惣菜や弁当、調理済みパン等の販売や宅配を行う店舗。

3. 国分寺市の産業特性

(1) 市民の市内就業率と市内就業者数

国分寺市民の15歳以上の就業者のうち、市内で働く人の割合は21.6%です。武蔵野市と三鷹市がやや高くはなっていますが、国立市までのJR中央線沿線の自治体は2割半ばとなっています。立川市になると3割を上回り、府中市は4割弱となっています。

就業者数(15歳以上)をみると国分寺市は35,913人です。小金井市、国立市の2~3万人程度と同様に周辺自治体と比べて少ないことが分かります。一方、立川市と府中市が特に多く10万人を上回っており、武蔵野市、三鷹市、小平市も6~7万人の就業者がいます。いずれの自治体も市外からの就業者は5~6割となっており、国分寺市には市外から18,449人が働きに来ています。

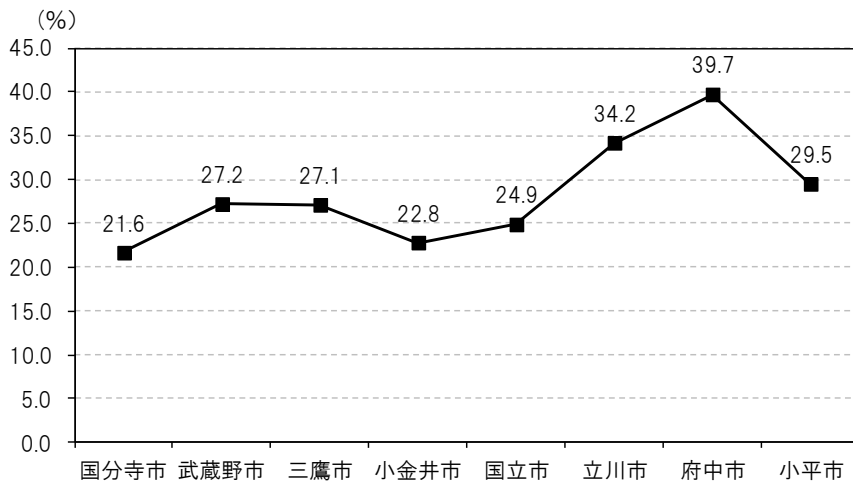


図11 国分寺市及び近隣自治体における市内で働く市民の割合

出典:「国勢調査」(平成22年)

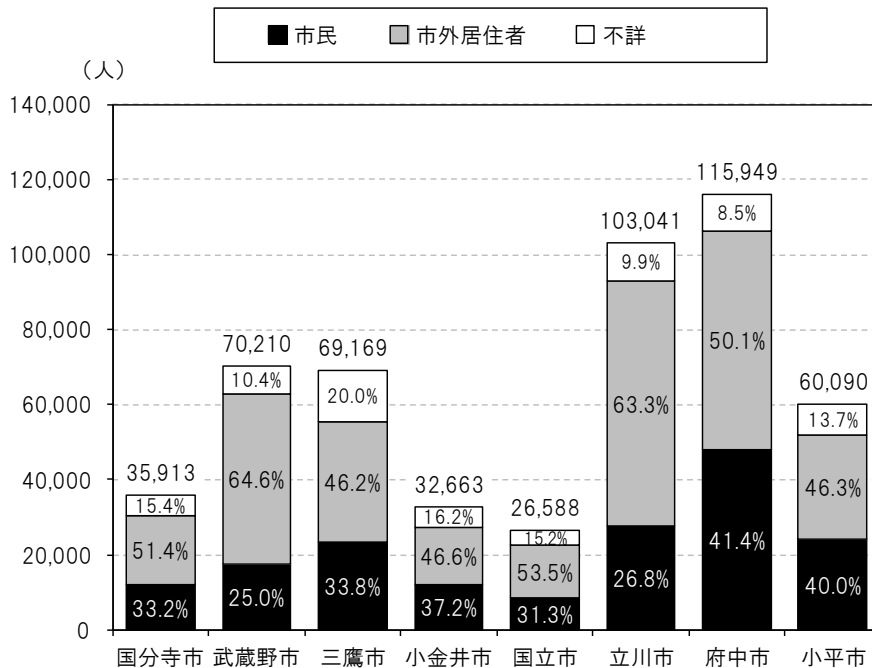


図12 国分寺市及び近隣自治体における市内就業者の居住地

出典:「国勢調査」(平成22年)

(2)地域産業の状況

卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業の事業所が特に多くなっており、従業者も同様です。商業統計※によると、卸売業・小売業では小売業が事業所・従業員ともに特に多くなっており、そのなかでも飲食料品が多いことが特徴です。

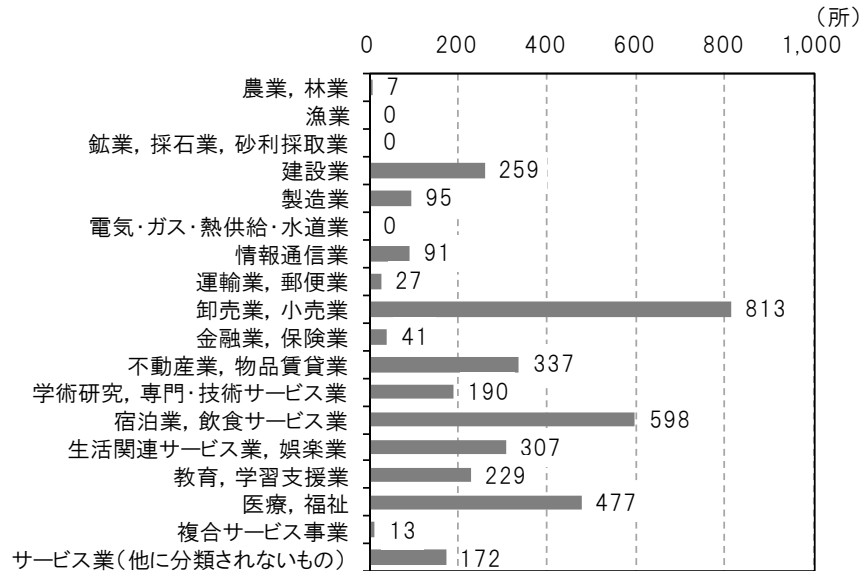


図13 産業別事業所数

出典: 経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

*データは経済センサス等のデータを加工しています。(以下, 図14~16, 18, 19も同様)

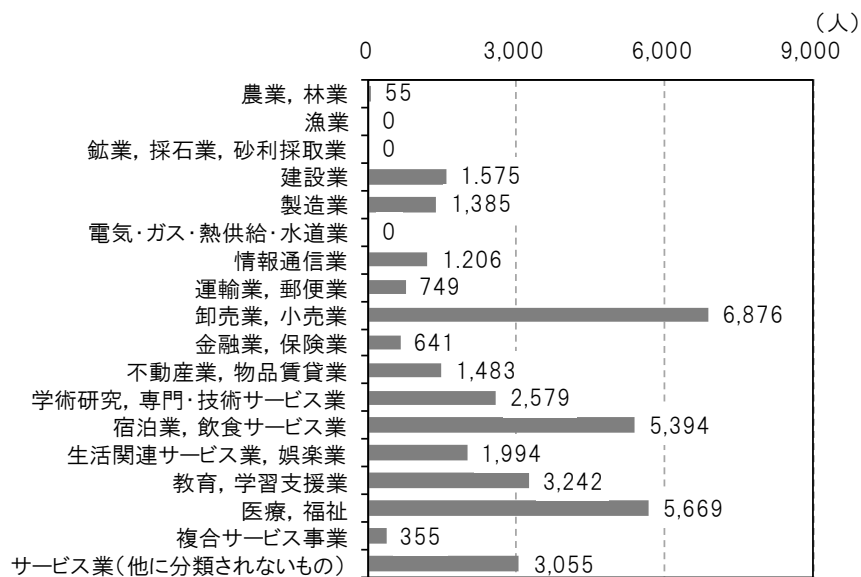


図14 産業別従業者数

出典: 経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

ただし、特化係数⁷でみると、農業・林業において事業所で2.57、従業員で3.55と特に高くなっています。実際に、平成22年国勢調査では、農業に従事している市内在住者は486人、全就業者の0.9%となっており、近隣自治体のなかでは最も多くなっています⁸。そのほか、事業所・従業員ともに特化係数が高いのは教育・学習支援業、医療・福祉です。

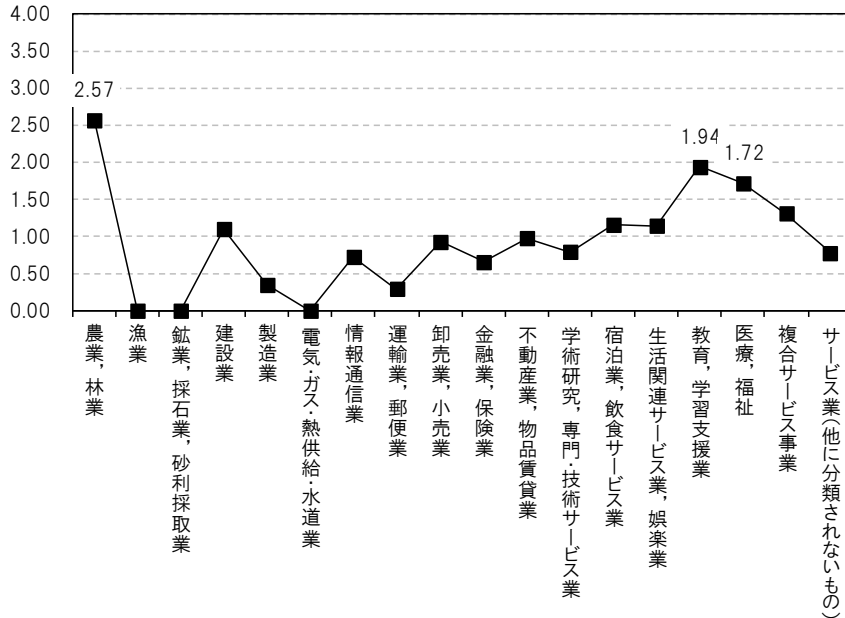


図15 RESASIによる事業所数特化係数

出典: 経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

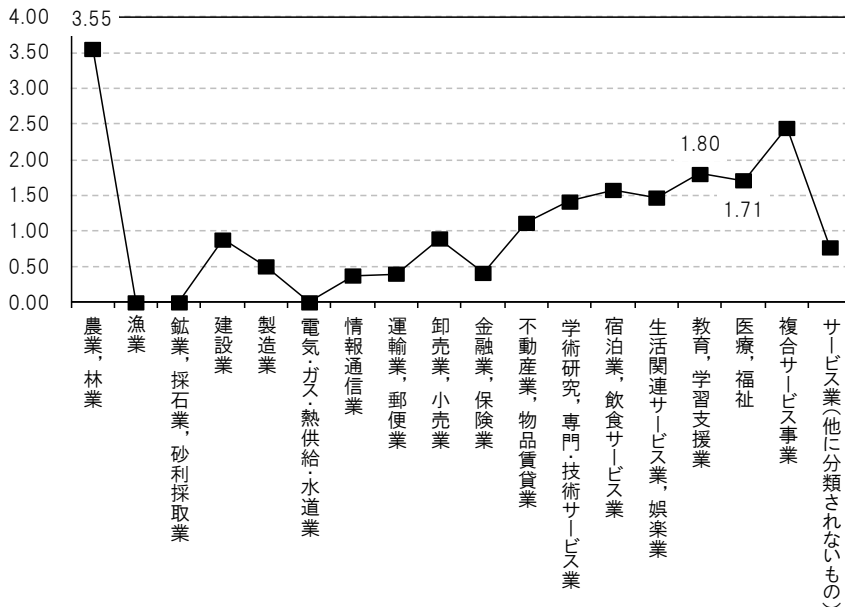


図16 RESASIによる従業員数特化係数

出典: 経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

⁷ 特化係数とは、自治体内の産業の業種構成や従業員数、付加価値額等について、その構成比を全国や東京都の構成比と比較した係数です。特化係数が高い産業は、その自治体の産業構造の特徴と捉えることができます。(本計画では東京都と比較しています。)

⁸ 経済センサスでは事業所単位で調査するため、個人単位で実施される国勢調査に比べて個人・世帯単位となる農業従事者の人数は少なくなります。

産業分類	人口(人)	割合(%)
農業, 林業	490	0.9
うち農業	486	0.9
漁業	2	0.0
鉱業, 採石業, 砂利採取業	10	0.0
建設業	2,608	4.7
製造業	5,131	9.3
電気・ガス・熱供給・水道業	218	0.4
情報通信業	4,413	8.0
運輸業, 郵便業	1,730	3.1
卸売業, 小売業	7,847	14.2
金融業, 保険業	2,364	4.3
不動産業, 物品賃貸業	1,773	3.2
学術研究, 専門・技術サービス業	3,794	6.9
宿泊業, 飲食サービス業	2,845	5.2
生活関連サービス業, 娯楽業	1,744	3.2
教育, 学習支援業	3,874	7.0
医療, 福祉	4,859	8.8
複合サービス事業	216	0.4
サービス業(他に分類されないもの)	3,131	5.7
総数	55,100	

図17 15歳以上の市民の産業別就業人口

出典:「国勢調査」(平成22年)

*表では「公務」「分類不能の産業」を割愛しているため、割合の総和は100%にはなりません。

(3)地域の生産力

平成24年経済センサス[※]活動調査によると、国分寺市の企業の付加価値額⁹は、卸売業・小売業が約230億円で最も高く、次いで学術研究・専門・技術サービス業が約190億円となっています。ただし、従業員一人当たりの付加価値額となる労働生産性[※]では卸売業・小売業は他分野と同じ程度となる一方、学術研究・専門・技術サービス業は変わらず高い数値となっています。

国分寺市内には、公益財団法人鉄道総合技術研究所やリオン株式会社の研究組織である小林理学研究所が所在することが背景にあると考えられます。これら二社が多くの特許[※]を保有していることから、事業所は少ないながらも、特許件数は近隣自治体のなかでは最も多くなっています。

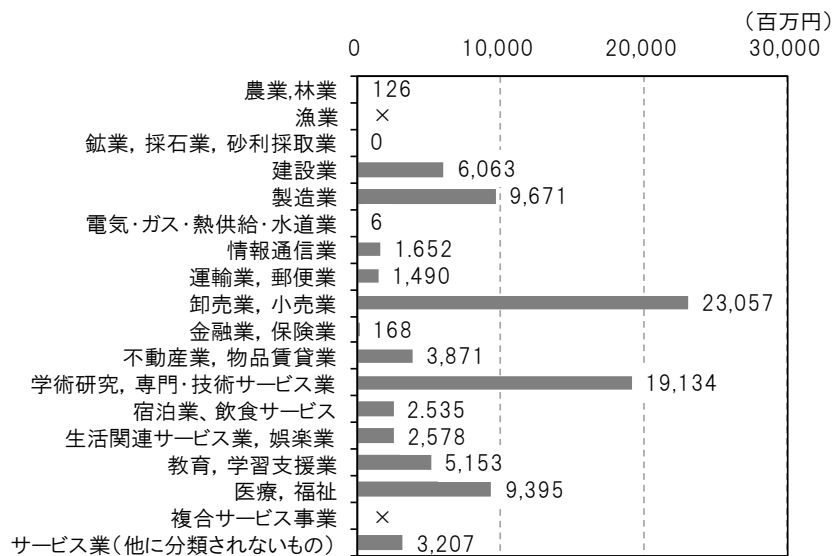


図18 産業分野別付加価値額

出典: 経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

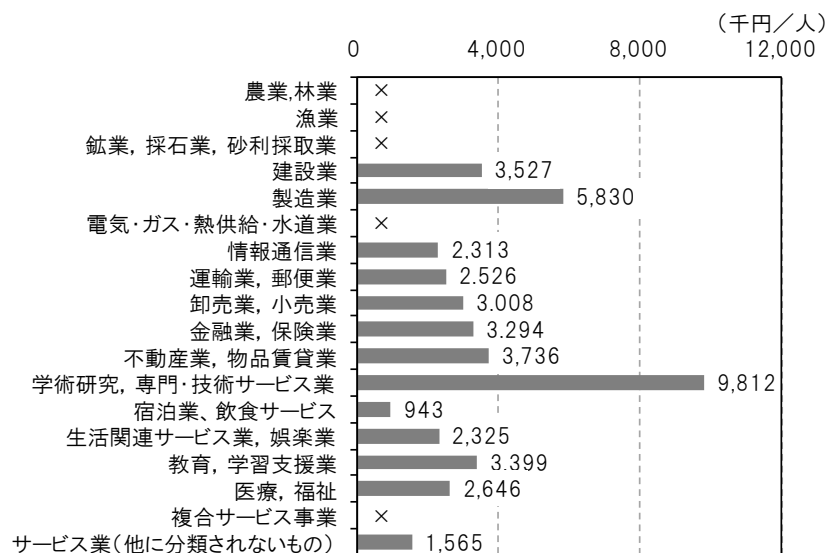


図19 産業分野別労働生産性

出典: 経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

⁹ 付加価値額とは、企業の売上高から原価や営業経費等の一般管理費、給与、租税公課を指し引いて得られる、企業が生み出した価値を計るための指標です。

(4) 商圈としての吸引力

国分寺市の商店数は年々減少傾向にあり、年間販売額もそれにあわせて減少しています。そのなかで、小売業が市外から人を呼び寄せるとなる小売吸引力指数¹⁰は0.507となっており、市外から人を集める商圈と言うよりも、市外へと消費が流出していることが伺えます。実際に、地域経済分析システムRESAS[※]では、約3,700億円の所得のうち3割強が市外へと流出していることが報告されています。

ただし、多摩地域全体の小売吸引力指数は0.58となっており、1.0近くとなっているのは武蔵野市と立川市のみです。武蔵野市・立川市は吉祥寺駅と立川駅というJR中央線沿線の商業拠点となる駅を抱えていることが要因だと考えられます。そのほか、0.70を超えている自治体は昭島市、町田市、武蔵村山市、多摩市だけです。これらの自治体はショッピングモール等の大型小売店の立地や、小田急線や京王線の拠点駅であることが理由として挙げられます。

都心へのアクセスがよく、武蔵野市と立川市に挟まれ、かつ大型小売店の立地のない国分寺市では、現状の消費行動のなかでは小売吸引力指数を高めることは容易ではないと言えます。

	人口(人)	商店数(店)	年間販売額 (百万円)	小売吸引力 指数
平成9年	103,736	771	101,503	0.634
平成11年	104,426	821	106,236	0.683
平成14年	109,874	718	99,299	0.643
平成19年	114,270	654	97,550	0.607
平成26年	118,697	460	85,744	0.507

図20 国分寺市の小売吸引力指数の推移

出典：経済産業省「商業統計」

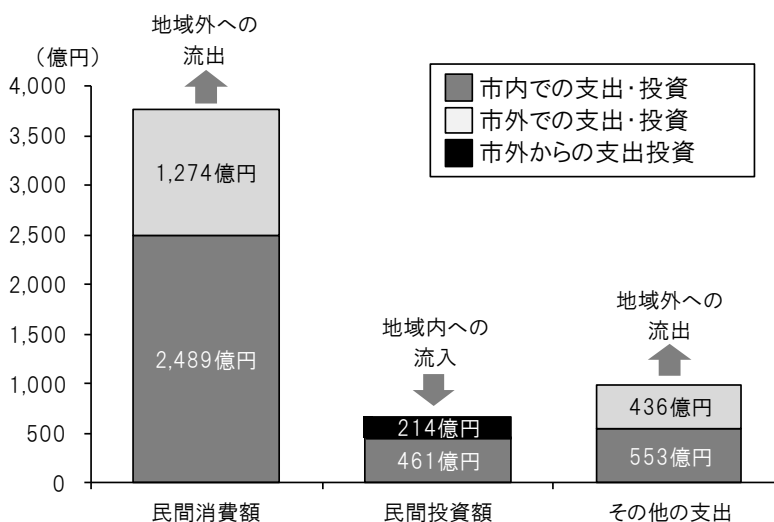


図21 市民・市内企業等の所得の流出入

出典：経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成22年)

*データは国勢調査、経済センサス等のデータを複合して用いられています。

¹⁰ 小売吸引力指数は、国や東京都の一人当たりの年間小売販売額に対する、自治体や区域の一人当たり年間小売販売額の比率です。自治体や区域の商業が誘客する力を示しており、指数が1.0以上の場合は買い物客を外部から呼び寄せており、1.0未満の場合は域外に流出していると読み取ることができます。

(5) 滞在人口

RESASでは、市内に2時間以上滞在人口が時間帯毎に報告されています。それをみると国分寺市では平日・休日ともに、7時以降、市内滞在人口は定住人口を下回っています。このことから、就業・消費ともに市外に流出していることが伺えます。

それに対して武蔵野市は平日こそ市内滞在人口と定住人口が同じ程度ですが、休日は滞在人口の方が大きく上回っています。また、立川市は平日・休日ともに市内滞在人口が定住人口を上回っています。武蔵野市は休日買い物や観光に訪れる人が多く、立川市はそれに加えて平日に働きに来る人も多いということが推察されます。

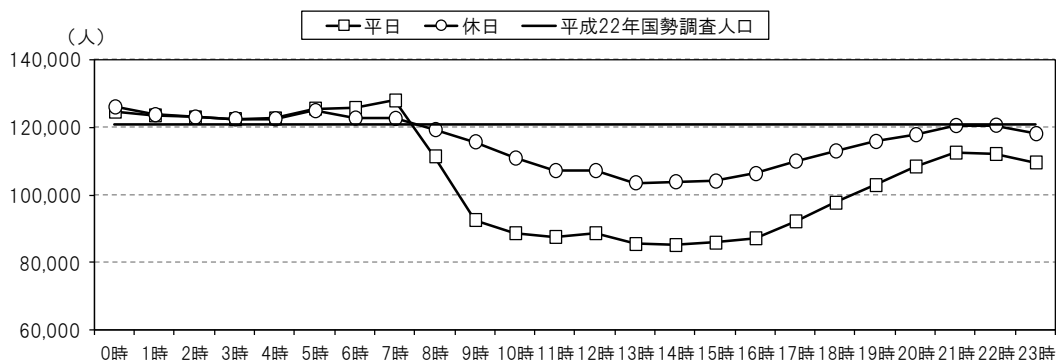


図22 国分寺市の時間別滞在人口

出典：経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成27年)

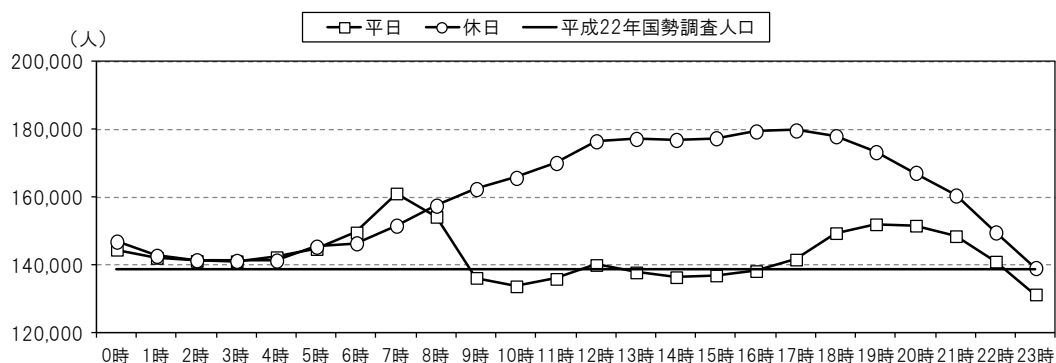


図23 武蔵野市の時間別滞在人口

出典：経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成27年)

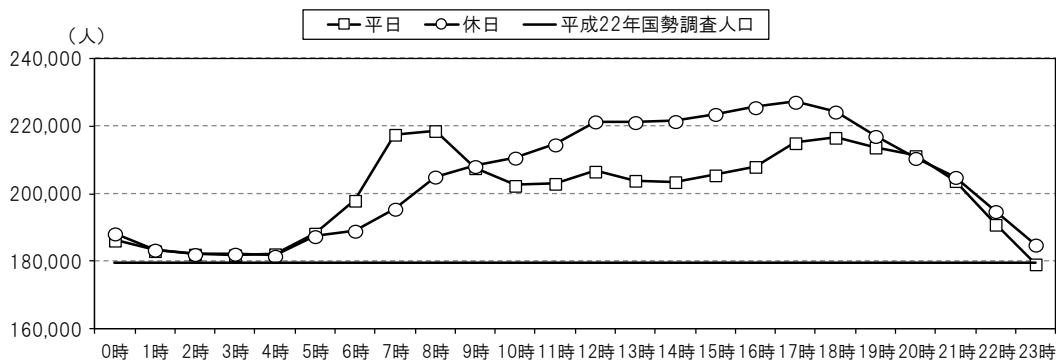


図24 立川市の時間別滞在人口

出典：経済産業省「地域経済分析システムRESAS」(平成27年)

4. 国分寺市内事業者の動向

(1)最近の売上・顧客数・仕入の変化

「国分寺市における地域活性化に関する事業所アンケート」(以下、事業者向けアンケート¹¹)によると、市内事業者の最近3年間の景況は、売上・顧客数に関しては減少している事業所の方が多くなっています。一方、仕入は増加している事業所の方が多く、利益の減少の一要因だと推察されます。

業種別にみると、小売業・飲食サービス業の事業所において他業種よりも売上・顧客数が減少している事業所が多いことが特徴だと言えます。

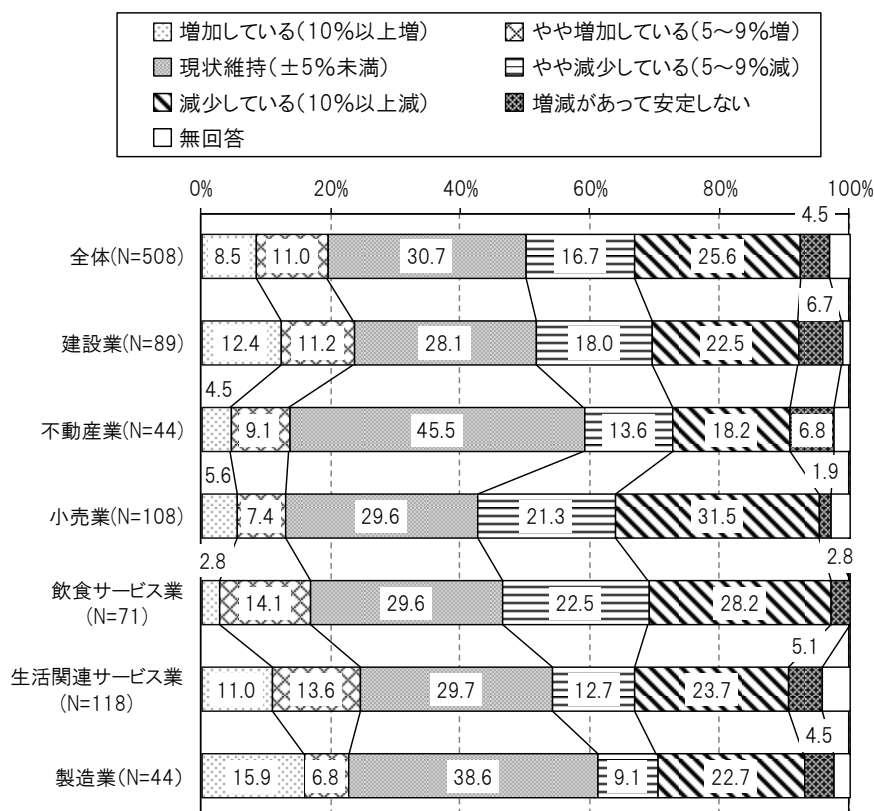


図25 業種別にみた最近3年間での上の変化

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

*業種が未回答者もいるため、全体の回答者数と業種毎の回答者の総数は一致しません。

¹¹「国分寺市における地域活性化に関する事業所アンケート」は、国分寺市商工会に加盟する1,147の事業所を対象として、市内事業者の景況や経営状況を把握することを目的として実施しました。対象となる事業所は、商業(建設業、不動産業、小売業、飲食サービス業、生活関連サービス業で1,056件)と製造業(91件)に分類されます。回収率は44.2%(商業464件、製造業44件)でした。グラフ中、Nは回答者数を表します。

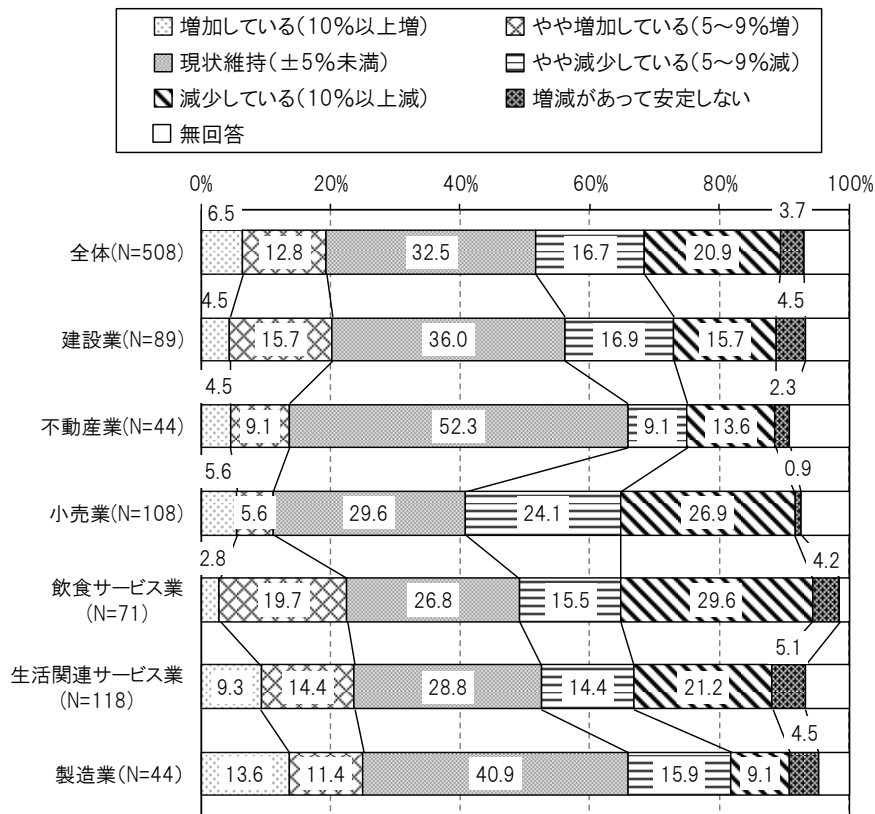


図26 業種別にみた最近3年間の顧客数の変化

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

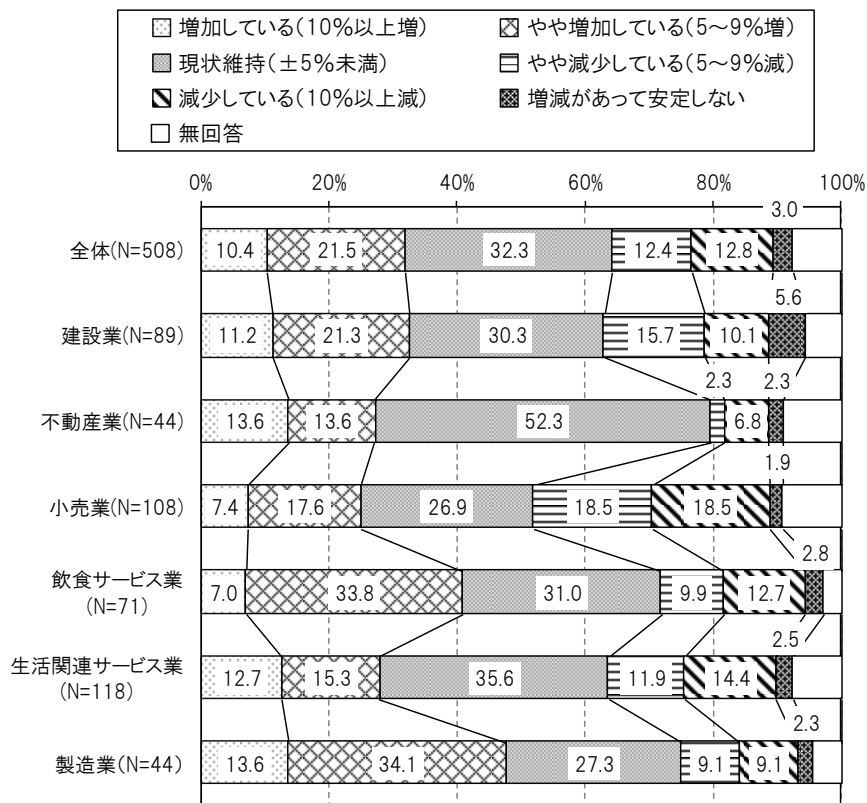


図27 業種別にみた最近3年間の仕入の変化

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

(2) 今後の営業規模の見通し

今後の営業規模の見通しについては、商業に関しては業種にかかわらず現状維持が5～6割となつていますが、不動産業で営業規模を拡大する事業所が多くなっている一方、小売業・生活関連サービス業で他業種よりも営業規模を縮小する事業所が多くなっていることが特徴です。

また、製造業では5割弱の事業所が事業拡大や多角化を考えている状況です。

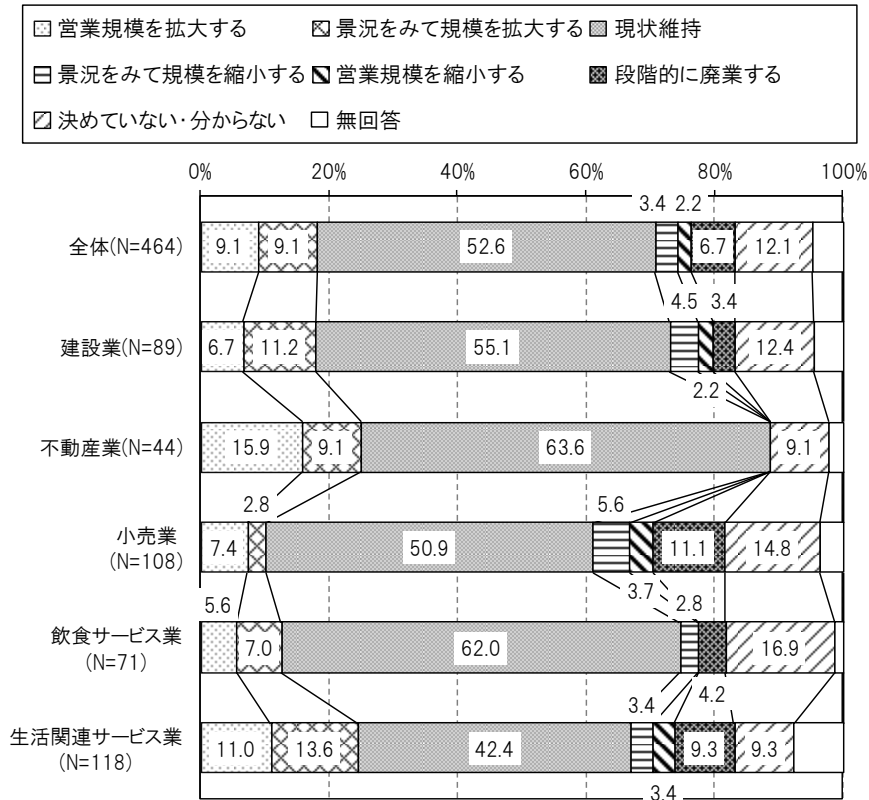


図28 業種別にみた今後の営業規模の見通し

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

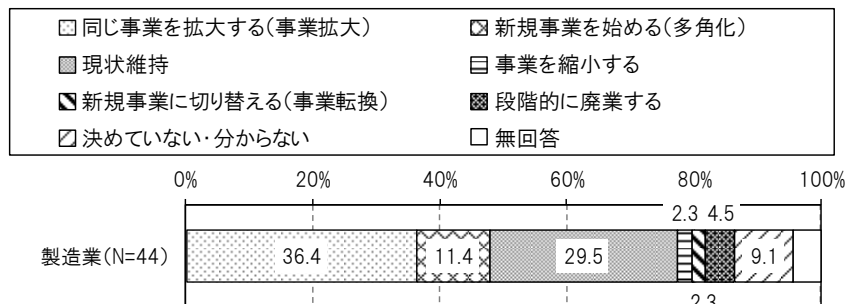


図29 製造業の今後の営業規模の見通し

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

(3)事業継承

事業継承^{*}については、経営者が60歳以上の事業所のうち3～4割が後継者がいない状況です。さらに、経営者が80歳以上になると継がせる意思がない事業所が2割弱となります。

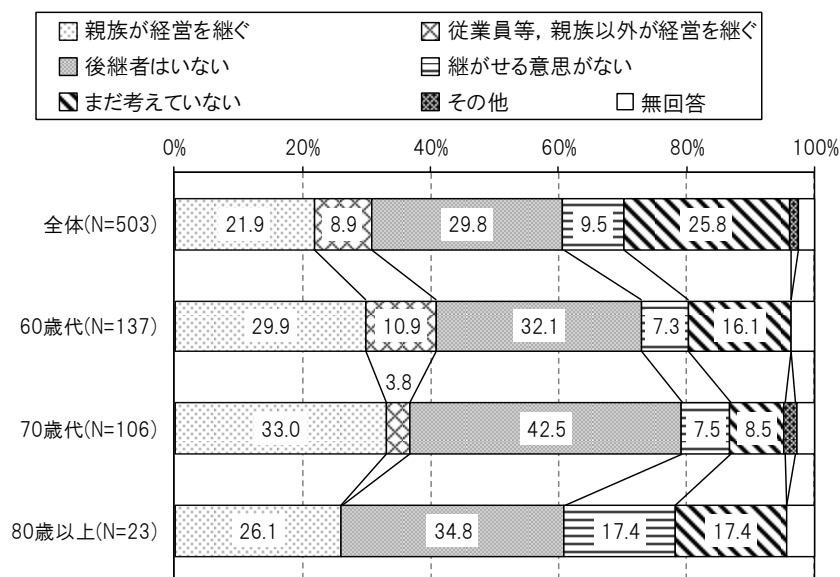


図30 高齢経営者の事業所における事業継承の状況

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

*60歳未満の経営者もあり、全体の回答者数と60歳以上の3つの年齢区分の回答者の総数は一致しません。

(4)市内における受発注関係

納入先をみると、多くの事業所が市外から納入していることが分かります。一方、納品(販売)先については、市内への納品(販売)の方が多い事業者が増えます。特に小売業・飲食サービス業では、市内への販売(市民へのサービス)が4割以上となる事業者が半数近くとなります。

食料品関係の小売業・飲食サービス業において地産地消^{*}に取り組んでいる事業者は2割程度でした。3割程度の事業者が関心を持っていますが、仕入方法が分からないことや、納入の安定性や食材が限られることを理由に利用をしていないという実態が分かりました。

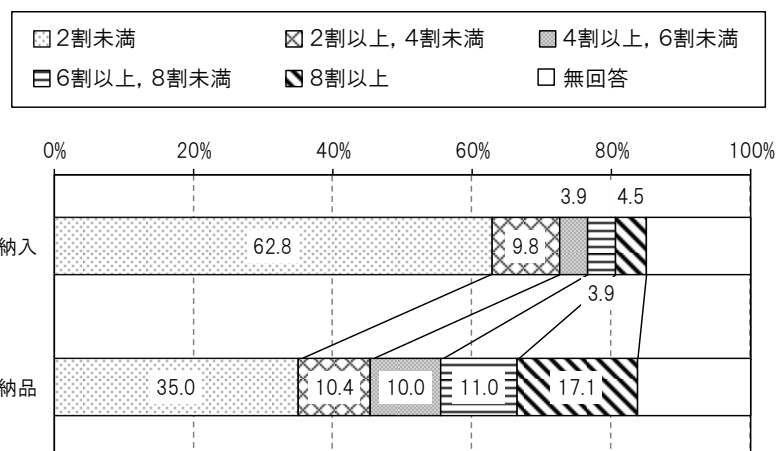


図31 納入・納品(販売)先の市内事業者・市民が占める割合

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

(5)商店会の状況

市内の商店会は、平成18年には21団体ありましたが、10年間で4団体が解散した結果、平成27年では17団体まで減少しています。会員数も若干増加した年もありましたが、10年間で約120店(事業所)減少し、現在は721店(事業所)が会員になっています。

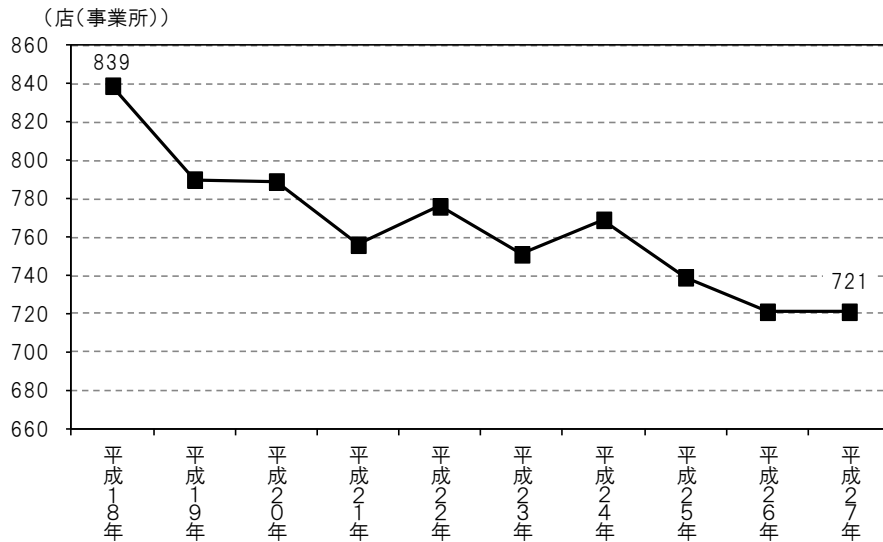


図32 市内商店会の会員数の推移

出典：国分寺市資料

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
東栄会	70	69	69	65	65	58	57	60	58	58
国分寺北口駅前商店会	62	59	55	59	59	52	58	59	59	60
国分寺北口西通り商店会	21	21	21	21	21	17	17	13	13	12
本町4丁目商店会	51	48	42	41	45	44	44	40	38	38
パザールK会	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八日会商店会	20	20	18	18	18	18	18	17	18	18
札ノ丘商店会	34	28	30	21	29	32	30	34	34	33
本多中央商店会	26	25	26	30	28	28	26	28	27	26
本多すずらん商店会	43	38	38	36	38	34	38	23	25	27
国分寺駅南口商店会	165	149	150	143	145	135	145	135	130	133
国分寺南栄商店会	53	60	65	63	59	59	59	60	60	58
東元町商店会	40	38	37	38	41	41	41	46	44	43
むさし商興会	40	38	38	38	40	43	43	42	41	41
内藤橋通り商店会	6	6	6	6	7	7	6	6	6	6
協和会	8	7	7	-	-	-	-	-	-	-
こいがくぼ商店会	8	7	7	-	-	-	-	-	-	-
恋ヶ窪商店会	58	56	55	55	52	54	57	48	48	51
22番街商店会	54	52	53	51	50	52	53	52	53	52
光商店会	40	40	43	43	52	51	51	51	48	47
光商栄会	19	19	19	19	21	19	19	18	19	18
高木町商店会	13	10	10	9	7	7	7	7	-	-
全体	839	790	789	756	776	751	769	739	721	721

図33 市内各商店会の会員数の推移

出典：国分寺市資料

「事業者向けアンケート」では、約半数の事業所が商店会会員になっていました。そのうちイベントを活発に行っている商店会の会員である事業所のうちの半数がイベントの効果を実感していることが分かりました。

一方、商店会に加盟しようと思わない約3割の事業所にその理由を尋ねたところ、商店会に加盟するメリットを感じないという理由が最も多くなっていました。商店会に加盟するとメリットを感じる一方で、加盟していない店舗がそれを認識していない状況になっており、非加盟店へのPRやコミュニケーションが求められると考えます。

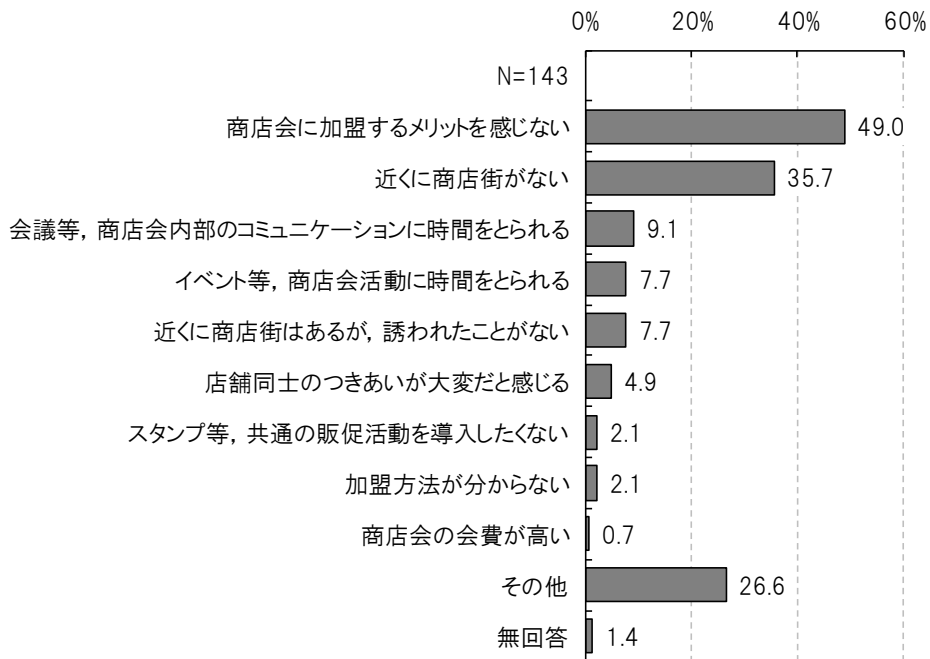


図34 商店会に加盟しない理由

出典:「事業者向けアンケート」(平成28年実施)

5. 国分寺市の魅力・資源

(1) 国分寺市の資源

■ 歴史資源が豊かなまち

国分寺市は、歴史資源に恵まれており、様々な時代の遺跡が多数残っています。そのなかでも国指定史跡である武蔵国分寺跡[※]は代表的な資源であり、現在、歴史公園として整備を進めています。この付近は、都立武蔵国分寺公園[※]と隣接するほか、東山道武蔵路跡[※]や真姿の池湧水群[※]、お鷹の道[※]等、歴史・自然資源が多く集積しています。

史跡を見学に訪れる人や家族連れ等、多くの人々が集う場所となっています。最近では史跡の駅おたカフェ[※]がオープンしたことで、徐々に市民が余暇を楽しめる場所となってきています。

■ 豊かな自然と都市農業

国分寺市は、水と緑にも恵まれており、真姿の池湧水群をはじめとした湧水源が点在しているほか、都心近郊ながらも農地が多く残っていることが特徴です。都市化が進むなかで農地も徐々に減少してはいますが、近隣市のなかでも市域に占める農地の割合が最も高くなっています。

また、農業生産の面でも、うどやブルーベリーが特産品となっているほか、野菜、果樹、植木、畜産等、多岐に渡る生産が行われています。定期的に国分寺駅前直売会が行われているほか、市内各地で軒先販売が盛んに行われており、身近に市内農産物を購入することができる環境となっています。実際に、平成16年と平成27年に実施された「国分寺市農業に関する市民アンケート」での市内農畜産物の購入状況を比較すると、10年前よりも市内農畜産物を購入する人が増えていることが分かります。

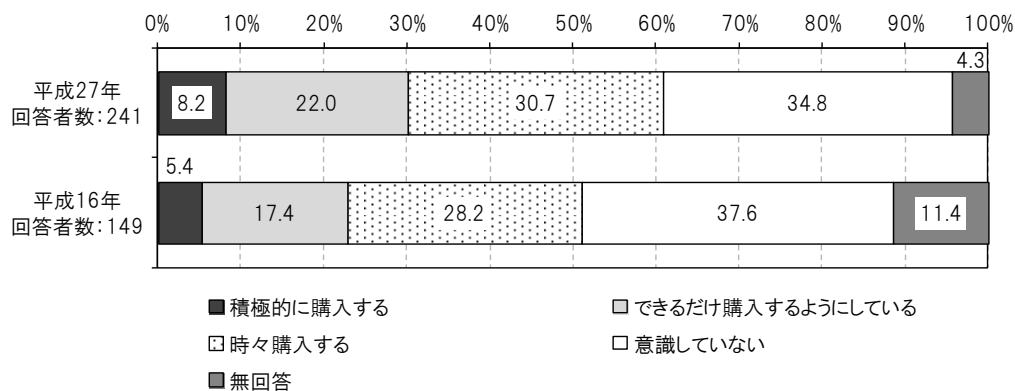


図35 市内産農畜産物の購入状況

出典：国分寺市農業に関する市民アンケート(平成16年・平成27年)

国分寺の歴史・自然資源



写真左上:お鷹の道
写真右上:東山道武蔵路跡
写真左下:武蔵国分寺跡
写真右下:真姿の池湧水群

(2)市民が思う国分寺市の魅力

市民向けアンケートでは、国分寺市の魅力として、みどり、歴史、農産物・農地が多く挙げられており、歴史や自然の豊かな資源は、市民にも認知されていることが分かります。それら資源に続かたちで、「まちあるきを楽しめる」が魅力として多く選ばれています。このことから、商業振興プランにて示された「ぶらぶら歩きが楽しいまち」という国分寺のイメージは、市民にも共感されるものであることが伺えます。

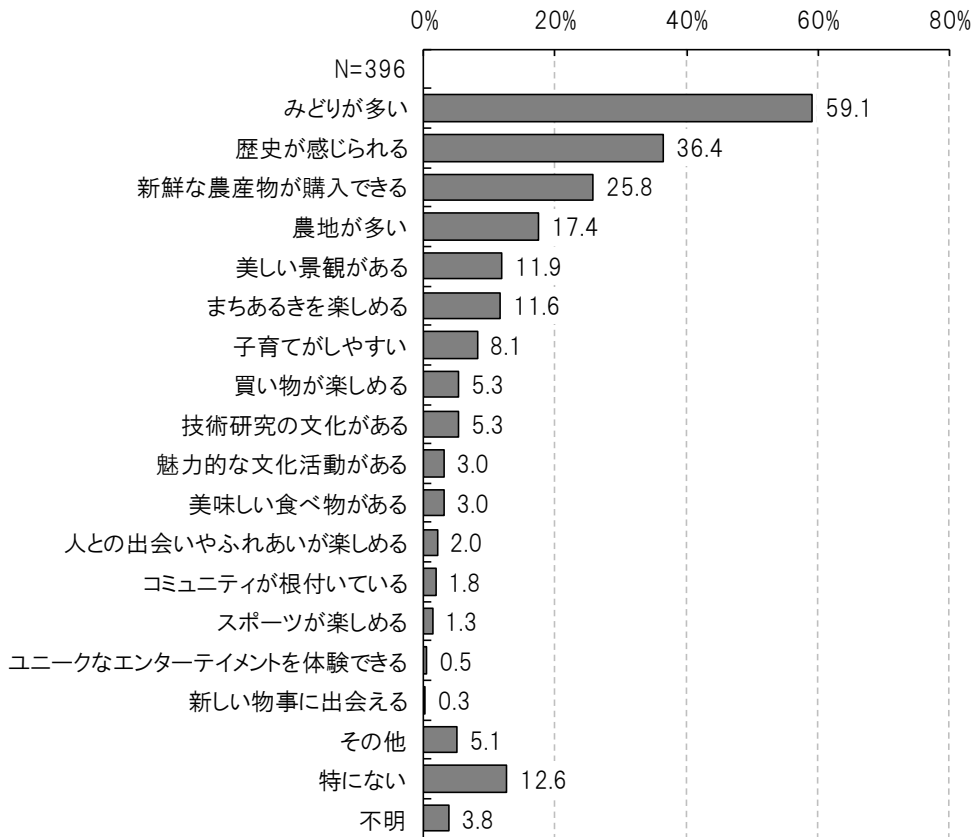


図36 市民が思う国分寺市の魅力

出典：「市民向けアンケート」(平成28年実施)

6. 今後予定されるまちづくりへの期待

(1) 今後予定されるまちづくりの概要

■ 国分寺駅北口再開発事業

国分寺駅北口では、平成31年度の完成を目指して再開発事業が進められています。同事業では、商業施設と公益施設、そして集合住宅の複合ビル2棟のほか、交通広場や歩行者デッキが一体的に整備される予定です。

複合ビルは国分寺駅周辺のシンボリックな存在になるだけでなく、商業施設・公益施設は、賑わいの創出や国分寺の文化や観光の魅力を発信する拠点になることが期待されます。また、複合ビル北側の交通広場の整備と連動して、広場から北側に延びる都市計画道路(国3・4・12)が都市計画道路(国3・4・6)まで整備することが予定されており、国分寺駅北口全体の交通環境・歩行環境が向上することが期待されます。

■ 都市計画道路の整備

国分寺市においては、国分寺駅北口に接続する都市計画道路(国3・4・12)のほか、多摩地域における南北の主要な幹線道路である都市計画道路(国3・2・8)も整備が進められているところです。また、国分寺駅の南側にて国分寺街道と並走する都市計画道路(国3・4・11)の整備とあわせて、まちづくりの検討が進められているところです。

これらの道路整備により、府中市、小平市等と国分寺市の間での南北の移動が増加することが予想され、誘客につながることを期待されます。

また、車両交通が減少し、歩行環境が改善されることになる国分寺駅北口の駅前通りや国分寺街道沿道の商業の活性化につながることも期待されます。

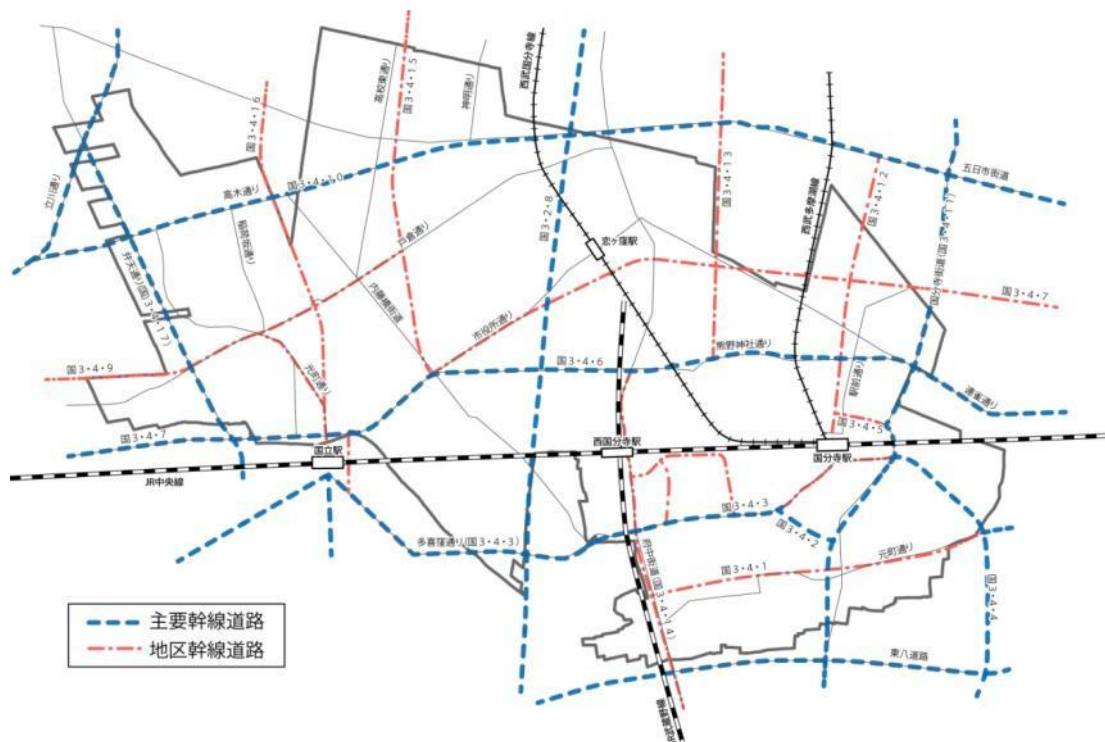


図37 主要幹線道路と地区幹線道路

出典:「国分寺市都市計画マスタープラン」

(2)市民の期待

国分寺駅北口再開発に対する市民の期待としては、商業施設の集積が特に多くなっています。また、再開発事業にて整備されるオープンスペース^{*}の活用としては、オープンカフェ等の設置のほか、市内農畜産物の直売会が多くなっています。

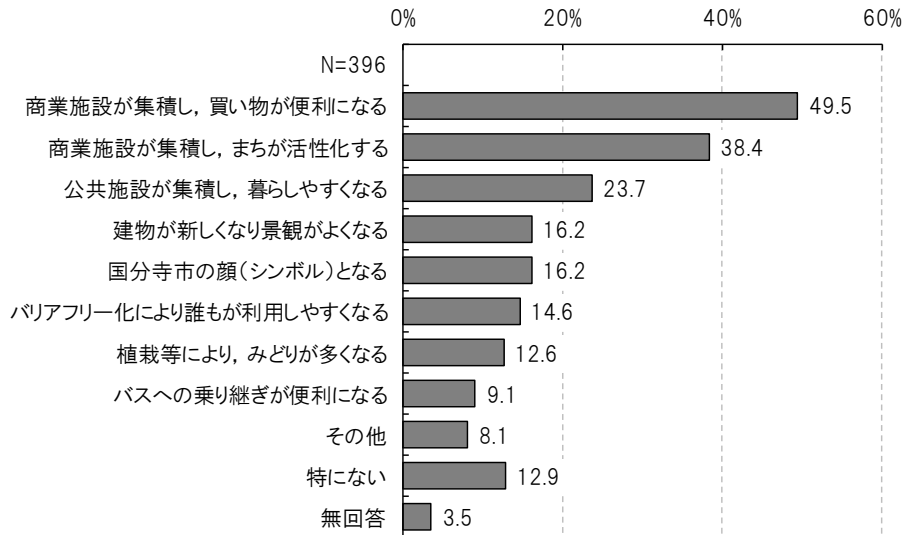


図38 国分寺駅北口再開発事業に対する市民の期待

出典:「市民向けアンケート」(平成28年実施)

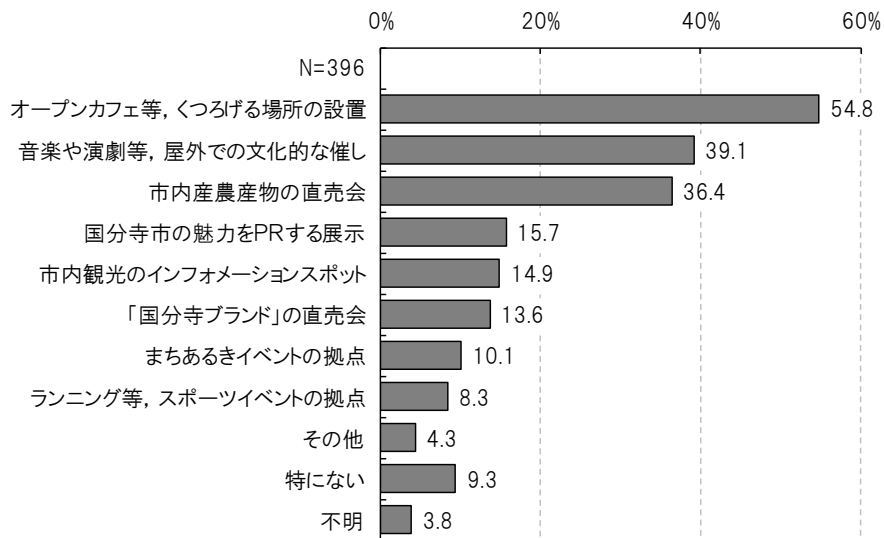


図39 再開発終了後にオープンスペースの活用方法に対する要望

出典:「市民向けアンケート」(平成28年実施)

(3)事業者の期待

事業者における国分寺駅北口再開発への期待については、住民や来街者の増加、周辺開発が期待されています。期待していない事業者も4割となっていますが、市の北部や国立駅周辺に立地する事業者においては期待できることが少ないためだと推察されます。

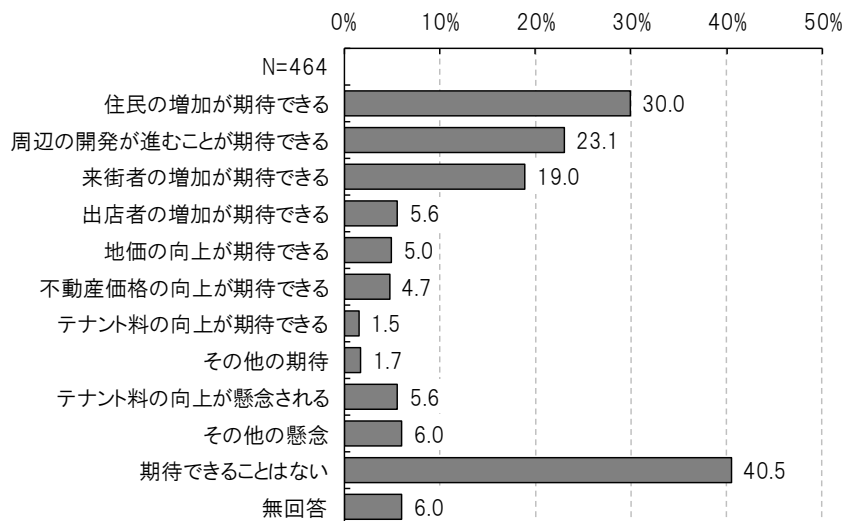


図40 国分寺駅北口再開発事業に対する事業所の期待・懸念

出典:「事業所向けアンケート」(平成28年実施)